

平成25年度 加茂・南蒲 図工・美術部 活動報告

部長 上村 奈々緒

1 研究主題

一人一人の思いや発想を支援するための教材研究

2 研究の概要

5月2日(木) 事業計画立案・研究テーマ決定

8月27日(火) 実技講習

3 研究の実際

実技講習 人物クロッキー・静物着彩

①期日：8月27日(火) 14:30～16:40 ②会場：加茂市公民館

③参加者：14名 ④講師 日本画家 長谷川 優子先生

(1) 講話

○クロッキーとは、速く(即興的に)描くこと。手の訓練、目の訓練のため、絵を描くための下敷きとして描く。大きな動きをとらえる、どんな動きをしているのか、大きくとらえる。

○画材について：クレヨンはろうが強くぼかしにくい。パステルは柔らかく、ぼかすなどの使い方がしやすい。また、二つに折って使うと横にして面で描くこともできる。

(2) 実技講習

○画材の体験

パステルを使っていろいろな線を描く。違う色を混ぜる。

○1分で描く

右手と左手をかき分ける。強く握っている感じ、弱く握っている感じなどを感覚で描く。1分で描くこと(1分クロッキー)は高揚した気持ちで描けるため、子どもも筆が進みやすい。大きな形をとらえ、線の強さ弱さが描けるようになるとよくなる。

○5分クロッキー

パステルを使い、面をとらえて描く。その後、鉛筆で少し細かく線を入れる。

○15分で描く

周りに色を付けることにより、描きたい物を浮き上がらせる。目の前のモデルをよく見て描く。2メートル離れて絵を見ると見え方が違う。

(3) 質疑・応答

絵を描きたがらない子どもに対しては、「キラキラした感じ、しめった感じを描いてみよう」など言葉がけの工夫を試みる。また、人物が漫画になってしまう子には、目鼻口を描かずにクロッキーをさせてみる、輪郭線を描かせないで描く練習をさせてみる、不自由な画材を与える(プラスチックスプーンなど)が考えられる。



4 成果と課題

「人物を描かせるときどのように指導してよいか分からない」という部員の悩みから、研修内容を決めた。大きくとらえる、面をとらえるなど新たな視点を学べたことで、指導にも生かせると感じた。講師先生の「どの絵にも良さはある」という言葉が印象的で、有意義な研修であった。